

平成 28 年 度
(平成 27 年度実績)

食肉衛生検査業務概要



鹿児島市食肉衛生検査所

はじめに

鹿児島市食肉衛生検査所の業務につきましては、平素から格段のご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

昨年4月1日、と畜場法施行規則の一部改正により、と畜場における衛生基準に「HACCP (Hazard Analysis and Critical Control Point) 導入型基準」が加わりました。HACCPの導入は、食の安全性向上は勿論、海外輸出の促進や2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据えた喫緊の課題とされています。当検査所においても、HACCP指導担当チームを編成し、と畜業者に対する講習会を行うなど、段階的導入に向けた体制を構築するよう努めているところです。

BSE(牛海綿状脳症)検査につきましては、現在、国で健康と畜牛での検査廃止と神経症状及び全身症状を呈する24か月齢以上の牛を検査対象とすること及び特定部位の範囲についての見直しが進められています。今後も適切に対応し、と畜業者に対する指導も徹底してまいります。

また、平成25年以降、国内で散発しているPED(豚流行性下痢)や近隣国で発生のある口蹄疫等の感染症に対しましては、関連機関との情報共有を密に行い、消毒の徹底、防疫及び衛生指導の実施を行い、感染拡大防止に努めてまいります。

さて、鹿児島市では「すこやか安心政策」において、食品関連施設の監視指導、事業者や市民への衛生知識の普及啓発、情報提供、流通食品の検査等を実施しているところです。鹿児島市内唯一の食肉衛生検査所である当検査所としても、鹿児島市の「食品の生産から食卓まで」のフードチェーンの担い手として、出荷業者、解体業者、加工業者との協力体制を大切にし、検査技術の研鑽に努め、適正な検査、監視指導等により、食の安心・安全の確保に取り組んでいきます。今後とも、ご理解とご協力をお願い致します。

ここに、平成28年度食肉衛生検査業務概要(平成27年度実績)を取りまとめましたので、ご高覧ください。

平成28年9月

鹿児島市食肉衛生検査所長
岸良 弘昭

目 次

第1章 検査所の概要

1	沿革	1
2	所在地	2
3	組織機構	3
4	職員構成	3
5	事務分掌	3
6	検査手数料等	4
	(1) と畜検査手数料	
	(2) と畜場使用料・とさつ解体料	
7	検査所管理棟平面図	5、6
8	主要検査機器	7
9	鹿児島食肉センターの概要	8

第2章 と畜検査業務の概要

1	と畜検査頭数	
	(1) 年度別と畜検査頭数	9
	(2) 年度別と畜検査頭数の推移	9
	(3) 月別と畜検査頭数	10
	(4) 月別と畜検査頭数の推移	10
	(5) 出荷地別と畜検査頭数	11
	(6) 豚の湯剥ぎ、皮剥ぎの推移	11
2	と畜検査に基づく廃棄処分措置	
	(1) とさつ禁止又は廃棄の疾病別頭数	12
	(2) 年度別全部廃棄頭数の推移	13
	(3) 牛の全部廃棄状況	14
	(4) 豚の全部廃棄状況	15
3	精密検査実施状況	
	(1) 枝肉の拭き取り検査	16
	(2) 抗菌性物質の残留検査	16
	(3) BSE(牛海綿状脳症)の検査	17
4	その他	
	(1) 衛生講習会	17
	(2) 普及啓発	17

第3章 調査研究、研修等

1	調査研究部会	18
2	調査研究および発表 職員の技術研修等	18、19

第1章 検査所の概要

1. 沿革

明治 42 年 7 月	『鹿児島市営と畜場』を鹿児島郡伊敷村字松木川原に設置
大正 9 年 10 月	伊敷村の一部合併により経営権を伊敷村へ移譲
大正 13 年 7 月	と畜場を伊敷村下伊敷 557 - 2 に移転し、名称を『伊敷村営屠場』へ
昭和 25 年 10 月	伊敷村との全面合併により、経営権を鹿児島市へ移行 と畜検査業務は保健所公衆保健課が所管
昭和 32 年 10 月	と畜場を郡元町 2411（現：新栄町 22-34）に移転
昭和 34 年 10 月	機構改革により所管を中央保健所公衆保健課から中央保健所公衆衛生課へ 変更
昭和 46 年 10 月	中央保健所公衆衛生課に食肉検査係を新設
昭和 50 年 2 月	試験検査室の新設
昭和 53 年 2 月	病畜棟 (134 m ²) の新設、検査員事務室 (64 m ²) の増設
平成 4 年 4 月	食肉検査係から食肉検査課に昇格
平成 8 年 4 月	鹿児島市が中核市へ移行
平成 8 年 10 月	と畜場を新栄町 22-34 から下福元町 7852 に移転
平成 9 年 4 月	食肉検査課から食肉衛生検査所へ改称
平成 12 年 4 月	機構改革により環境局中央保健所食肉衛生検査所から 健康福祉局保健所食肉衛生検査所へ変更
平成 15 年 4 月	と畜場を民営化し、名称を『鹿児島食肉センター』へ
平成 19 年 2 月	試験検査室等の増築
平成 22 年 3 月	と畜場が対タイ輸出牛肉取扱い施設として認定される と畜場が対マカオ輸出牛肉取扱い施設として認定される

2. 所在地

名 称 鹿児島市食肉衛生検査所（鹿児島食肉センター内）

郵便番号 891-0144

住 所 鹿児島市下福元町7852

電 話 (099) 262-2116

F A X (099) 262-4940

アクセス方法

①電車を利用

JR鹿児島中央駅より、JR指宿枕崎線「指宿行き」に乗車、JR五位野駅で下車
JR五位野駅から鹿児島食肉センターまでタクシーで約5分、徒歩で約20分

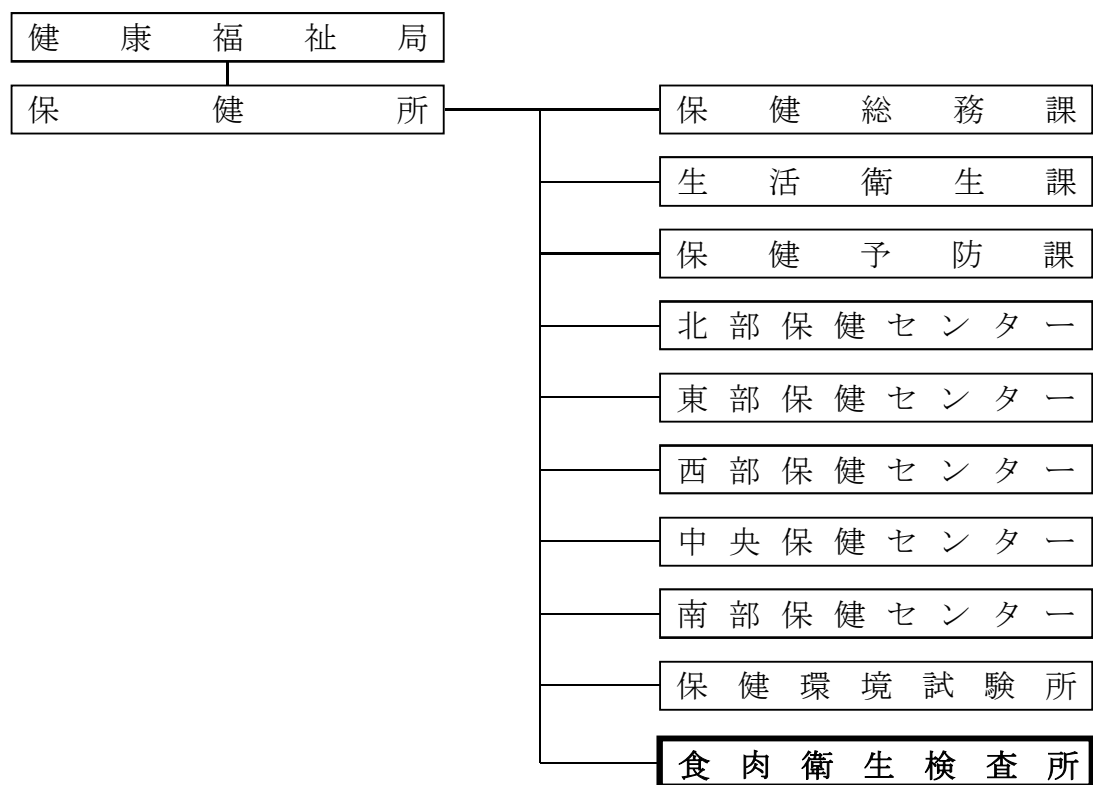
②航空を利用

鹿児島空港よりバス利用の場合

高速バス（直行便）でJR鹿児島中央駅まで約40分 その後電車を利用



3. 組織機構



4. 職員構成

28年4月1日現在

職名	所長	主幹	主査	主任	獣医師	主査	嘱託*	臨時職員		合計
職種	獣医師					事務	獣医師	補助員	事務	
人数	1名	3名	2名	5名	2名	1名	1名	7名	1名	23名

*延べ2名

5. 事務分掌

鹿児島市組織及び事務分掌等に関する規則（抜粋）

- (1) と畜場法に基づくと畜検査及び衛生指導に関すること。
- (2) 食品衛生法に基づく監視指導、収去・検査及び措置に関すること。
(他の所掌に係るものを除く。)
- (3) 公印の保管に関すること。
- (4) その他所に属する軽易な庶務に関すること。

食鳥検査については、市保健所生活衛生課獣疫係が所掌し、指定検査機関の公益財団法人鹿児島市獣医公衆衛生協会に検査業務を委任している。

6. 検査手数料等

(1) と畜検査手数料

(1頭あたりの手数料)

区 分	時間内	時間外
牛・馬	760 円	1,520 円
子牛・子馬	380 円	760 円
豚	350 円	700 円
乳とく・めん羊・山羊	170 円	340 円

平成 19 年 4 月 1 日から適用

(2) と畜場使用料・とさつ解体料

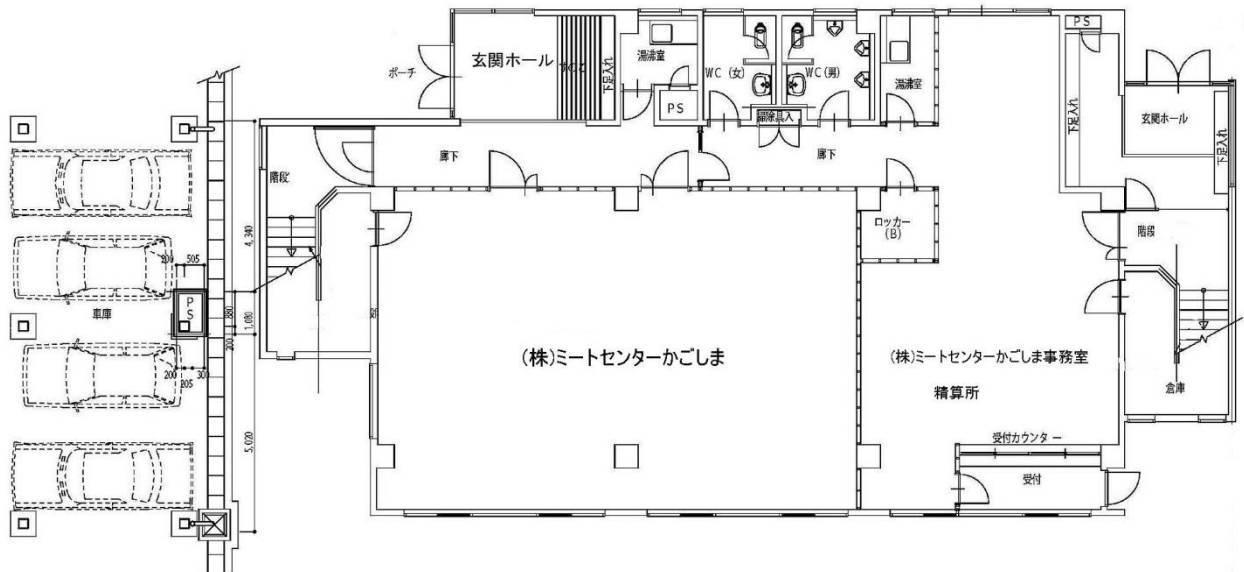
(1頭あたりの料金)

区 分			時間内	時間外	
と畜場使用料	牛・馬		2,203 円	3,304 円	
	子牛・子馬		1,101 円	1,652 円	
	豚	皮剥ぎ	1,101 円	1,652 円	
		湯剥ぎ	1,242 円		
	乳とく・めん羊・山羊		237 円	356 円	
とさつ解体料	牛・馬		5,190 円	8,441 円	
	子牛・子馬		3,198 円	6,868 円	
	豚	普通	皮剥ぎ	692 円	3,439 円
			湯剥ぎ		
		大豚	皮剥ぎ	(機 械) 1,426 円	
				(手剥ぎ) 1,845 円	4,593 円
			湯剥ぎ	1,426 円	
	乳とく・めん羊・山羊		1,573 円	5,243 円	

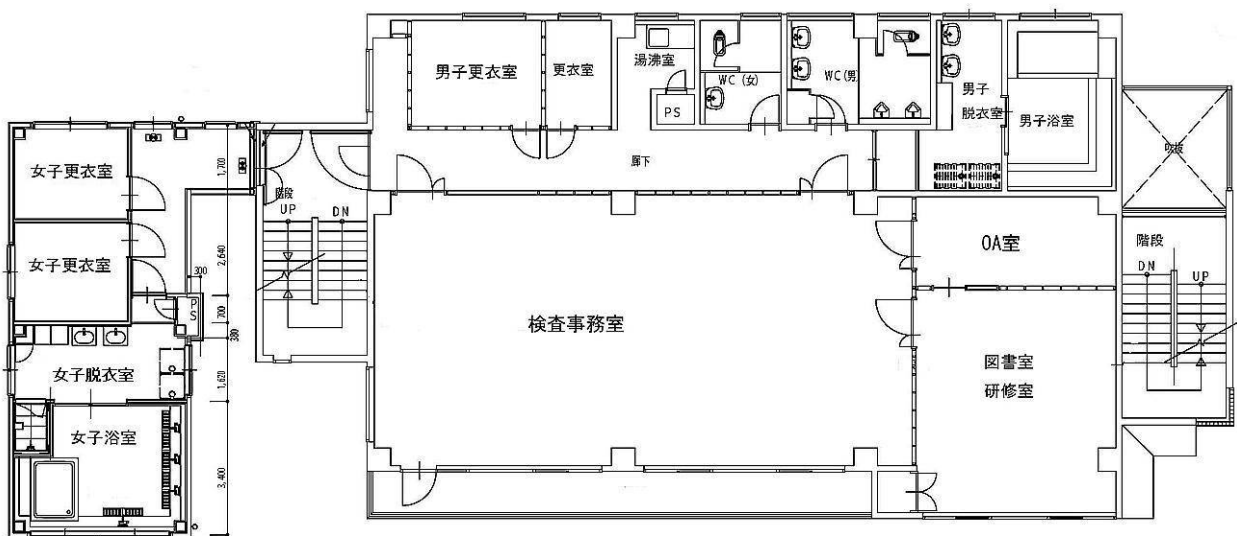
平成 26 年 4 月 1 日から適用

7. 検査所管理棟平面図

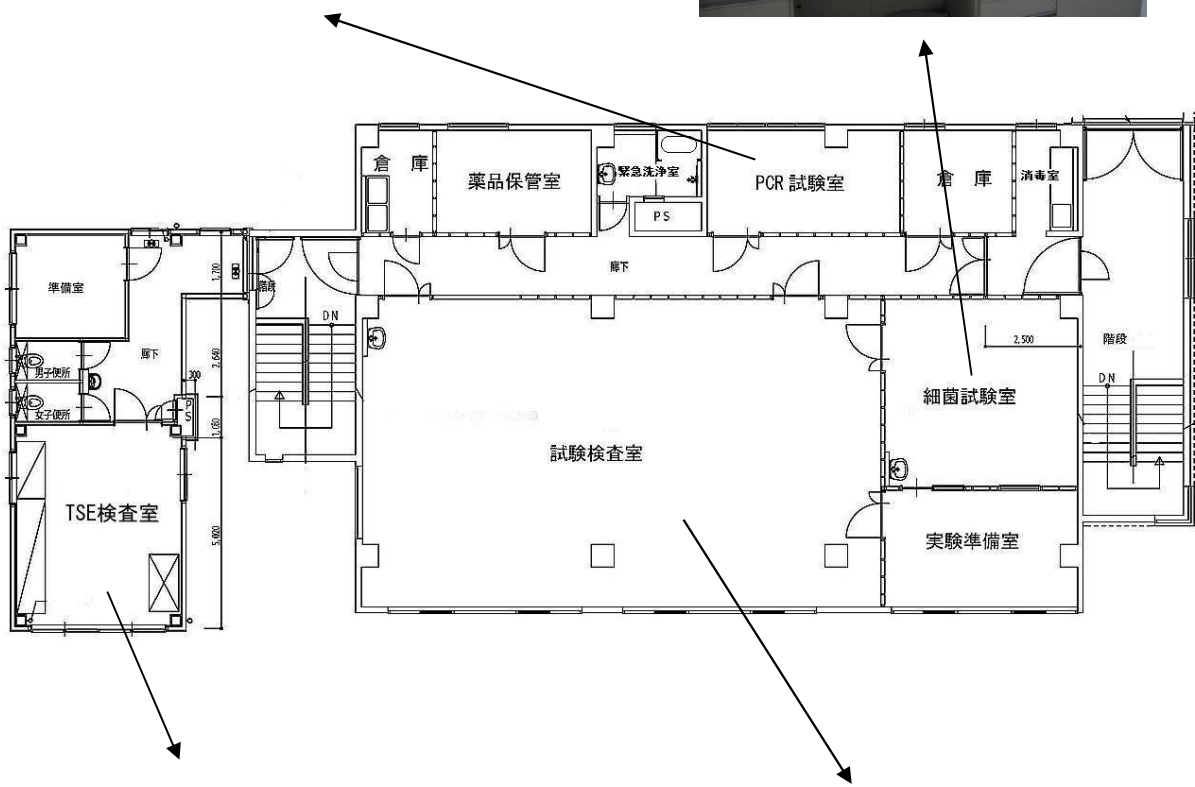
食肉衛生検査所管理棟（1階）



食肉衛生検査所管理棟（2階）



食肉衛生検査所管理棟（3階）



8. 主要検査機器

微生物検査関係	乾熱滅菌器	インキュベーター	試験管ミキサー
	マグネットスターラー	オートクレーブ	実体顕微鏡
	位相差顕微鏡	嫌気培養ジャー	ディープフリーザー
	高速冷却遠心機	ディスクッション顕微鏡	保冷库
	冷蔵ショーケース	バイオクリーンベンチ	試験管攪拌器
	孵卵器	万能シェーカー	低温恒温器
	湯煎器	DNA 増幅装置	紫外線照射装置
	アルミブロック恒温槽	嫌気性培養装置	微量電子天秤
	ミキサー	電気泳動装置	電気泳動ゲル撮影装置
	安全キャビネット		

理化学検査関係	超音波洗浄機	血液生化学自動分析装置	水分計
	電子分析天秤	高速液体クロマトグラフ	ロータリーエバポレーター
	pH メーター	アスピレーター	振とう器
	卓上型生化学検査システム	超高速ホモジナイザー	ピペット洗浄器

病理検査関係	自動固定包埋装置	病理組織検査用顕微鏡システム	パラフィン包埋ブロック作成装置
	クリオスタットマイクロトーム	組織固定用振とう器	パラフィン伸展器
	マイクロトーム		

BSE検査関係	マイクロプレートリーダー	試験管ミキサー	組織・細胞破碎装置
	マイクロプレートウォッシャー	インキュベーター	高速冷却遠心機
	安全キャビネット	アルミブロック恒温槽	電子天秤
	保冷库		

9. 鹿児島食肉センターの概要

(1) 敷地面積 29,846.61 m² (9,044 坪)

(2) 建築面積 11,076.96 m²

(3) 延床面積 14,461.16 m²

本 館 棟 12,353.78 m²

					(m ²)
		大動物	小動物	共 用	小計
とさつ解体施設	係留バース	1,740			7,233
	係留施設	369	958		
	と室・解体室	323	926		
	内臓処理室	144	264		
	休憩室・工作室・廊下等	2,509			
冷蔵室		205	257		462
部分肉処理加工施設		929	1,985	824	3,738
共用施設 (冷凍機械室、医務室等)		920			920
計		1,670	4,690	5,993	12,353

管 理 棟 967.60 m²

病 畜 棟 262.50 m²

廃棄物処理棟 420.00 m²

受水槽棟 75.56 m²

汚水処理棟 381.72 m²

(4) 処理能力

	大 動 物	小 動 物
けい留所収容	57 頭	1,000 頭
とさつ・解体	80 頭/日	1,300 頭/日
懸肉・予冷		1,300 頭/日
冷却・冷蔵	200 頭	1,900 頭 (部分肉処理加工施設含む)
部分肉処理加工	45 頭/日	400 頭/日

第2章 と畜検査業務の概要

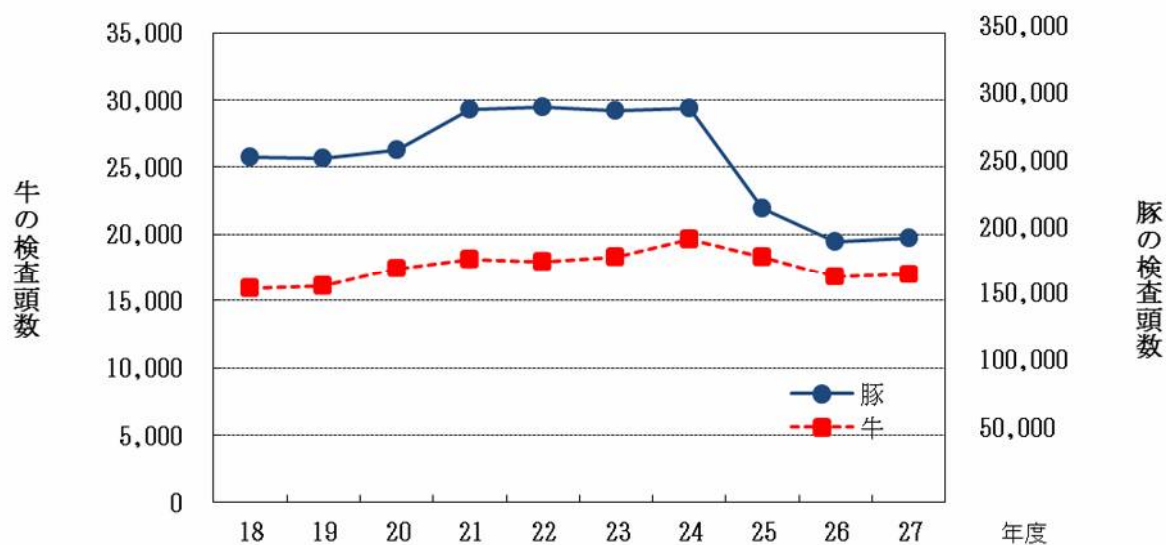
1. と畜検査頭数

(1) 年度別と畜検査頭数

	牛		子牛		馬		豚		合計
	時間内	外	時間内	外	時間内	外	時間内	外	
18年度	15,817	104	22	1	14	0	257,239	38	273,235
19年度	16,009	85	18	2	15	1	256,830	42	273,002
20年度	17,278	109	25	2	18	0	262,888	31	280,351
21年度	17,993	100	39	2	12	1	293,171	26	311,344
22年度	17,780	135	63	2	5	0	294,839	32	312,856
23年度	18,126	112	17	5	3	0	292,039	26	310,328
24年度	19,543	105	20	3	2	0	294,017	32	313,722
25年度	18,191	90	6	0	0	0	219,180	36	237,503
26年度	16,719	101	14	3	0	0	194,150	21	211,008
27年度	16,846	109	12	2	0	0	196,935	35	213,939
	16,955		14		0		196,970		
	16,969								

注) 子牛は生後1年未満の牛をいう。

(2) 年度別と畜検査頭数の推移

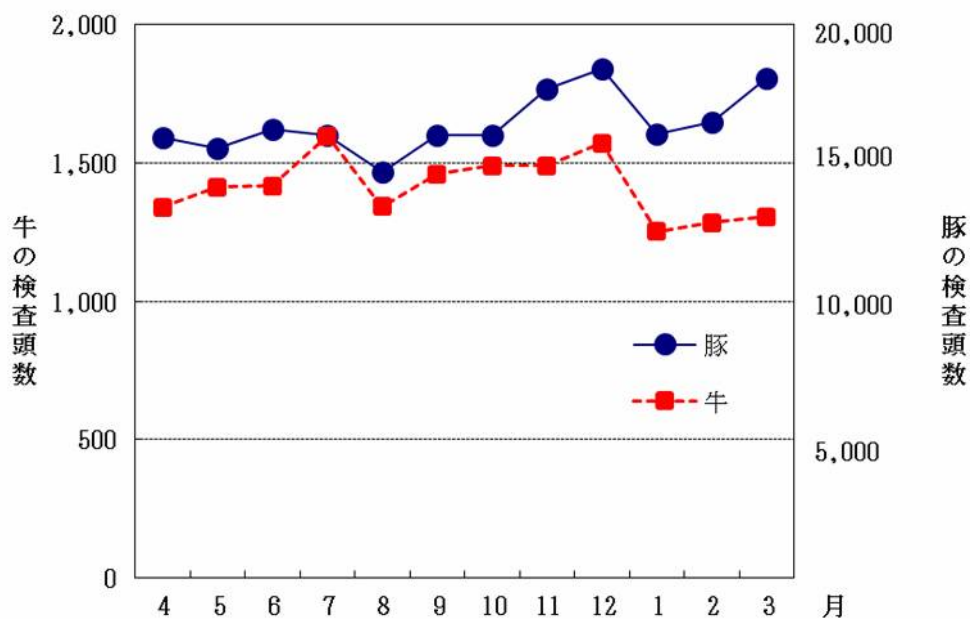


注) 25年度は大手出荷者の撤退により減となった。

(3) 月別と畜検査頭数

	牛		子牛		豚		合計
	時間内	外	時間内	外	時間内	外	
4月	1,331	8	1	0	15,923	1	17,264
5月	1,395	16	3	0	15,523	2	16,939
6月	1,408	7	2	0	16,222	1	17,640
7月	1,588	9	1	0	15,986	5	17,589
8月	1,330	12	1	0	14,667	6	16,016
9月	1,450	8	2	0	15,982	5	17,447
10月	1,475	14	0	1	15,991	2	17,483
11月	1,484	6	1	0	17,675	0	19,166
12月	1,565	6	0	0	18,391	1	19,963
1月	1,244	10	0	0	16,053	2	17,309
2月	1,278	6	0	1	16,466	5	17,756
3月	1,298	7	1	0	18,056	5	19,367
合計	16,846	109	12	2	196,935	35	213,939

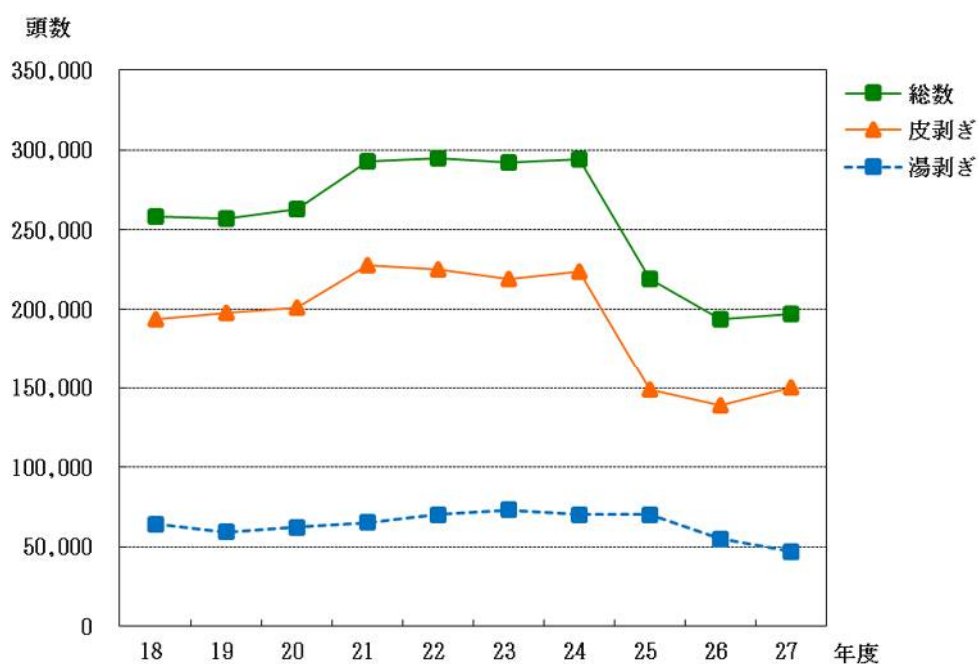
(4) 月別と畜検査頭数の推移



(5) 出荷地別と畜検査頭数

	牛の出荷地							豚の出荷地	
	和牛	乳牛		その他	子牛	総数	%	豚	%
		雌	雄						
鹿児島地区	377	26	0	0	0	403	2.4	759	0.4
指宿地区	795	6	215	387	1	1,404	8.3	8,592	4.4
川辺地区	2,313	92	0	25	1	2,431	14.4	63,091	32.0
日置地区	947	29	0	69	1	1,046	6.2	7	0.0
薩摩地区	704	1	0	206	3	914	5.4	21,560	10.9
出水地区	911	9	0	0	0	920	5.4	4,146	2.1
伊佐地区	420	11	2	319	0	752	4.4	10,921	5.5
始良地区	626	167	1	125	3	922	5.4	6,512	3.3
曾於地区	457	42	0	0	0	499	2.9	27,676	14.1
肝属地区	3,377	154	1	13	1	3,546	20.9	31,798	16.1
熊毛地区	82	3	0	0	0	85	0.5	244	0.1
大島地区	39	0	0	1	0	40	0.2	439	0.2
宮崎県	1,995	713	22	0	0	2,730	16.1	17,018	8.6
熊本県	124	273	3	79	0	479	2.8	4,158	2.1
その他	571	212	1	10	4	798	4.7	49	0.0
計	13,738	1,738	245	1,234	14	16,969	100.0	196,970	100.0

(6) 湯剥ぎ、皮剥ぎ頭数の推移 (豚)



2. と畜検査結果に基づく措置

(1) とさつ禁止又は廃棄の疾病別頭数

	と畜場内とさつ頭数	処分内容	処分実頭数		疾病別頭数																			計				
					細菌病							ウイルス		寄生虫病		その他の疾病												
					炭疽	豚丹毒	サルモネラ病	結核病	ブルセラ病	破傷風	放線菌病	その他	豚コレラ	その他	のう虫	ジストマ	その他	膿毒	敗血症	尿毒症	黄疸	水腫	腫瘍		中毒諸症	炎症又は炎症産物汚染物	変性又は萎縮	その他
牛	16,955	禁止																										
		全部廃棄	62	0.4							28				7	8	2	4	11						2			62
		一部廃棄	12,067	71.2									69											10,808	2,644	1,271	14,792	
子牛	14	禁止																										
		全部廃棄		0.0																								
		一部廃棄	14	100.0																				13		5	18	
豚	196,970	禁止																										
		全部廃棄	417	0.2		38									231	75	11	5	32	4					21		417	
		一部廃棄	139,842	71.0									6						10				171,608	1,270	8,823	181,717		
合計	213,939		152,402								28		69	6	238	83	13	9	43	14		182,429	3,937	10,099	197,006			

(2) 年度別全部廃棄頭数の推移

牛

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
膿毒症	5	8	7	3	7	8	5	7
敗血症	8	5	13	7	10	15	11	8
尿毒症	11	6	14	17	8	3	2	2
高度の黄疸	2	5	4	8	4	6	4	4
高度の水腫	36	18	22	21	26	11	20	11
腫瘍	23	34	23	9	13	15	3	
炎症又は炎症産物								
変性又は萎縮			1				1	2
牛白血病				31	41	50	27	28
計	85	76	84	96	109	108	73	62

注) H23年度より「腫瘍」のうち牛白血病と診断したものは「牛白血病」に分類

豚

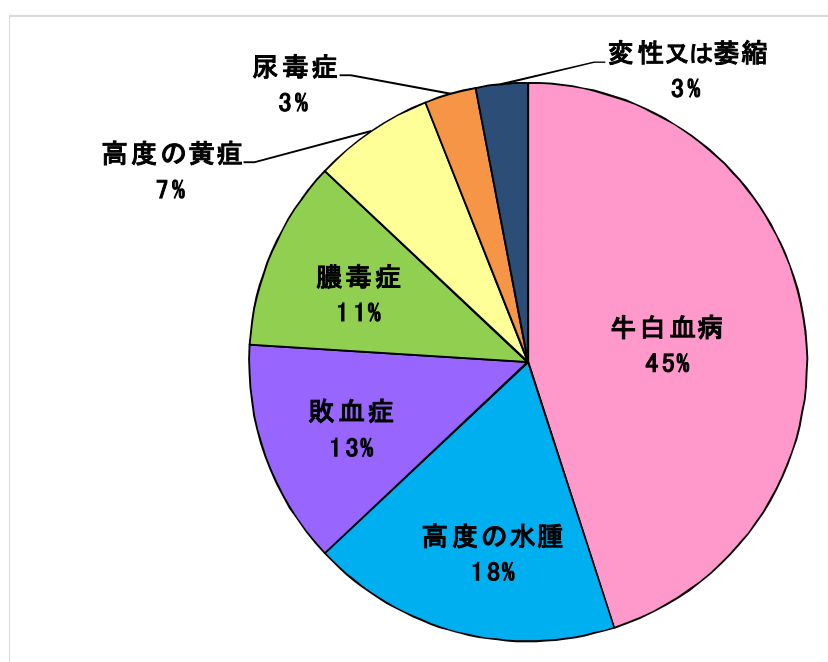
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
膿毒症	103	134	212	224	261	196	191	231
敗血症	35	30	88	80	167	87	96	75
尿毒症	12	14	14	17	20	11	6	11
豚丹毒	21	33	39	78	80	131	30	38
高度の黄疸	3	3	3	4	5	2	6	5
高度の水腫	129	111	150	200	256	104	98	32
腫瘍	14	47	29	21	24	8	3	4
炎症又は炎症産物								
変性又は萎縮	64	72	56	56	34	24	23	21
その他	2							
計	383	444	591	680	847	563	453	417

(3) 牛の全部廃棄状況

月別全部廃棄頭数

	牛										
	膿毒症	敗血症	尿毒症	高度の黄疸	高度の水腫	腫瘍	汚産物による炎症	炎症又は萎縮	変性又は萎縮	牛白血病	合計
4月		1	1							3	5
5月	1										1
6月					1					1	2
7月	2	2		1	2					3	10
8月	1				2					1	4
9月		2		1	2					7	12
10月								2		2	4
11月		1			1					5	7
12月	1	2								2	5
1月										2	2
2月	2		1	1	2					0	6
3月				1	1					2	4
合計	7	8	2	4	11	0	0	2		28	62

全部廃棄の疾病別割合

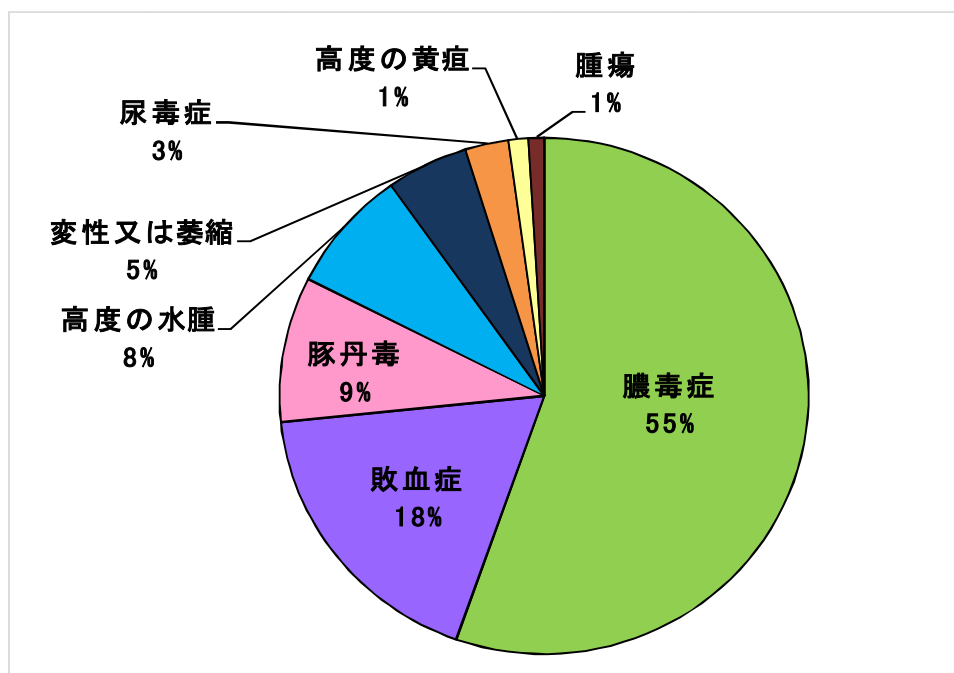


(4) 豚の全部廃棄状況

月別全部廃棄頭数

	豚										合計	
	豚丹毒	膿毒症	敗血症	尿毒症	高度の黄疸	高度の水腫	腫瘍	汚産物に染る症	炎症又は炎症	変性又は萎縮		その他
4月	1	20	1			5				3		30
5月	4	12	10			1	1			1		29
6月	5	18	11	1		2	1					38
7月	5	21	7		1	3				1		38
8月	2	15	5		1	3				2		28
9月	6	30	5	3		5				3		52
10月	4	19	4			3	1			2		33
11月	1	32	5	2		2				1		43
12月	3	20	6	3	3	1				5		41
1月	3	9	7			2				1		22
2月	1	16	6	2		3						28
3月	3	19	8			2	1			2		35
合計	38	231	75	11	5	32	4			21		417

全部廃棄の疾病別割合



3. 精密検査実施状況

(1) 枝肉の拭き取り検査

(検体数)

	一般細菌数	大腸菌群数	腸管出血性大腸菌	サルモネラ属菌	黄色ブドウ球菌	カンピロバクター属菌
牛	80	80	55	55	55	40
豚	80	80		55	55	40
計	160	160	55	110	110	80

(2) 抗菌性物質の残留検査

① 抗菌性物質の残留疑いの検査

		牛	子牛	豚	計
検査頭数		254	14	472	740
検査結果 (陽性)	頭数	0	0	6	6
	枝肉	0	0	1	1
	肝臓	0	0	0	0
	腎臓	0	0	6	6
処分状況	食品衛生法適用	0	0	0	0
備考	自主廃棄	0	0	1	1

② 疾病疑いによる保留での検査

		牛	子牛	豚	計
検査頭数		79	1	550	630
検査結果 (陽性)	頭数	0	0	2	2
	枝肉	0	0	2	2
	肝臓	0	0	1	1
	腎臓	0	0	1	1
処分状況 (検査結果が陽性の症例)	食品衛生法適用	0	0	0	0
	他の疾病で全部廃棄	0	0	2	2
備考	自主廃棄	0	0	0	0

③ モニタリング検査結果 (厚生労働省通知に基づく検査)

	検査検体数	検査項目数※	検査結果
牛の筋肉	10	11	検出せず
牛の腎臓	10	4	
豚の筋肉	20	11	
豚の腎臓	20	4	

※抗生物質簡易検査4系統 (テトラサイクリン系、アミノグリコシド系、マクロライド系、ペニシリン系)

※合成抗菌剤一斉分析7薬剤 (スルファメラジン、スルファモノキシン、スルファジメトキシ、チアンフェニコール、オルメプロリム、トリメプロリム、ピリメタミン)

(3) BSE（牛海綿状脳症）の検査

(検体数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
22年度	1,585	1,475	1,442	1,524	1,478	1,582	1,512	1,662	1,748	1,277	1,382	1,313	17,980
23年度	1,363	1,470	1,348	1,473	1,616	1,516	1,519	1,654	1,792	1,455	1,438	1,616	18,260
24年度	1,626	1,742	1,635	1,606	1,719	1,524	1,727	1,678	1,774	1,597	1,464	1,578	19,670
25年度	1,677	1,652	1,470	365	370	371	393	283	342	353	351	337	7,964
26年度	341	325	335	349	314	330	402	274	351	380	365	458	4,224
27年度	375	307	333	335	300	365	376	308	300	325	354	322	4,000
検査結果	陰 性												

4. その他

(1) 衛生講習会

と畜解体従事者および市民を対象とした衛生講習会を実施した。

講習会内容	対象者	受講者数	実施時期・回数
枝肉の拭き取り検査における一般細菌数の目標値の作成と衛生管理について	解体従事者	27名	H27年9月 H27年12月（各1回） H28年1月
安心して食べられる食肉をめざして	市民	35名	H27年7月（2回） H27年8月（1回）

(2) 普及啓発

平成27年8月、保健所食品衛生月間行事において大型商業施設でパネル展示を行い、と畜検査について紹介した。

第3章 調査研究、研修等

1. 調査研究部会

鹿児島県食肉衛生検査所協議会の三部会に参加し、それぞれのテーマについて調査・研究・情報交換等を行った。

年 月	テーマ	場 所
H27年5、11月 H28年2月	<微生物部会> 豚枝肉における微生物汚染調査	第1回 鹿児島県末吉食肉衛生検査所
H27年5、11月 H28年2月	<病理部会> 食肉検査時にみられる肝臓病変	第2回 鹿児島県獣医師会館
H27年6、11月 H28年2月	<理化学部会> 残留抗生物質検査法を中心とした 理化学検査基本マニュアルの作成	第3回 鹿児島県末吉食肉衛生検査所 鹿児島県阿久根食肉衛生検査所

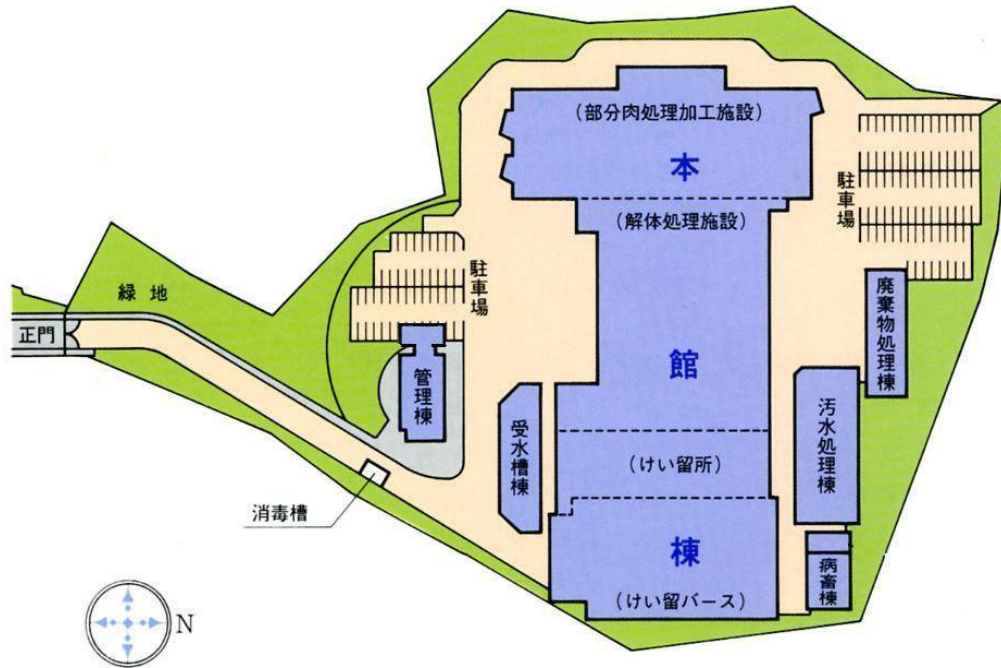
2. 職員の技術研修等

検査員の資質向上のため、研修会および学会等へ参加した。

年 月	業務研修の内容	場 所
H27年5月	全国食肉衛生検査所協議会病理部会総会・研修会	神奈川県相模原市
H27年6～7月	国立保健医療科学院研修食肉衛生検査研修	埼玉県和光市
H27年7月	鹿児島県獣医公衆衛生技術研修会	鹿児島市
H27年10月	九州地区食肉衛生検査所所長会・研究部会・研修会	宮崎市

H27 年 10 月	全国食肉衛生検査所協議会理化学部会総会・研修会	茨城県つくば市
H27 年 11 月	全国食肉衛生検査所協議会微生物部会総会・研修会	横浜市
H27 年 11 月	鹿児島県新規採用と畜・食鳥検査員技術研修会	鹿児島県
H28 年 1 月	厚生労働省食肉衛生及び食鳥肉衛生技術研修会	東京都
H28 年 2 月	日本獣医師会獣医学術学会年次大会	秋田市
H27 年 2 月	と畜場視察研修	滋賀県
H28 年 3 月	日本獣医病理学専門家協会学術集会	東京都
H27 年 3 月	HPLC 入門講習会	京都市

施設配置図



平成28年度 業務概要

平成28年9月 発行
(第32集)

鹿児島市食肉衛生検査所
〒891-0144
鹿児島市下福元町7, 852
TEL 099(262)2116
FAX 099(262)4940